

# さいたま市立病院だより えがお

Vol.43

## がん化学療法 について

「がん化学療法」＝「抗がん剤」と聞くと、「辛い、苦しい」「副作用が多い」など、とても大変な治療と考える方も多いと思います。しかし、近年の医学の進歩は目覚ましく、発見時は高度進行がんであっても、月に1回の点滴や1日1錠の内服薬のみで、大きな副作用なく長期間病状が安定する場合も珍しくありません。一人一人に合ったお薬を、患者さん、ご家族の皆さんの意向や価値観を踏まえながら一緒に選んでいく(Shared Decision Makingと言います)時代になってきました。

がん化学療法の目的には、①手術あるいは放射線治療と組みあわせることで治癒率を上げる、②進行がんの場合に自分らしい生活を続けながら病気と長く付き合っていく、③がんによる症状を和らげる、などがあります。したがって、同じ病名であっても患者さんそれぞれの病状や治療の目的により、使用する薬剤は異なってきます。

最近では、がん化学療法は入院よりも外来通院で行う場合が多くなっています。これは、①治療前とほぼ変わらない日常生活が送れる(昼間は仕事や家事を続け、夜は自分の布団でぐっすり眠れる)、②入院生活による精神的、金銭的負担が軽減できる、③大切な家族と過ごせる、などのメリットがあります。当院にも専用の外来化学療法室があり、19床のリクライニングチェアと1床のベッドを備えています。専任の看護師、薬剤師が常駐しており、プライバシーに配慮しながら安全に化学療法が実施できるように、日々運営しています。外来通院で化学療法を受けられる患者さんも年々増加傾向であり、2019年度は約2,800件の外来化学療法を実

施してきました。

外来治療においては、副作用が出現した際の対応が最も重要になります。薬剤の種類によっては特に気をつけていただきたい副作用もありますので、患者さんには体調の変化を記載していただく用紙やパンフレットをお渡ししています。治療中にご心配な症状がでた場合には、遠慮なく外来担当医や看護師にご相談いただけます。また、病気や治療の影響で食欲がわからないという患者さんには、外来点滴中に栄養士がお伺いして、調理法や補助食品などのアドバイスをさせていただきます。副作用による脱毛や皮膚の荒れなど整容面の心配に対しては、化学療法専門の看護師が相談に乗らせていただきます。がんに伴う辛い症状(体の痛みや心の辛さなど)については、緩和ケアチームの看護師がお話を伺い、主治医と一緒に対応を検討していきます。

担当の医師から化学療法の提案があった際には、患者さんとご家族が安心して治療が受けられるように病院全体でサポートをさせていただきます。ご不明な点、ご心配な点がありましたら、いつでもスタッフにお声がけいただければと思います。

腫瘍センター 関根 克敏



関根医師と外来化学療法室スタッフ

## 成育母子医療センターの紹介

院長補佐兼所長 池田 一成

さいたま市立病院は、昭和28年に浦和市立伝染病院として設立され、結核患者さんなどを中心に診療してきました。昭和47年に名称が浦和市立病院となり、昭和49年に小児科の診療をスタートしています。総合病院としての歴史は比較的浅く、総合病院になったのは平成元年で、この時初めて産婦人科が開設されました。平成13年に新生児集中治療室（NICU）9床を有する周産期母子医療センターを併設した頃から、さいたま市立病院の小児周産期部門の患者数は増えていきました。患者さんの増加に伴い、平成24年にNICUの病床数を12床に増床しましたが、施設の老朽化により、令和元年12月に新病院に移転しました。

さいたま市立病院は、「周産期母子医療を積極的に推進する」という基本方針を掲げています。この方針の基、新病院の5階フロアは産科部門、新生児部門、小児部門の3部門から構成される「成育母子医療センター」になりました。5AがNICU15床を含む33床の新生児病棟、5Bが感染病床2床を有する40床の小児病棟、5Cが周産期外来（産婦人科と新生児内科の外来）、5D



が40床の産科病棟という構成になっています。

幸い、さいたま市内ならびに隣接する地域の出生数はさほど減少していません。また、当院は医師会の先生方との病診連携もしっかりと確立されています。それが母体・新生児・小児救急車搬送患者数が年間1,000例以上と、県内3位の実績に繋がっていると思われます。

また、私たちは全国の医学部学生の見学を受け入れ、次世代を担う若手産科医、小児科医を育成するための研修医の教育、治験や臨床研究にも積極的に取り組み、教育施設としての実績も重視しています。

市民の皆様や医師会の先生方に、より一層信頼される成育母子医療センターを目指しております。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



陣痛室

陣痛室・胎児モニタリング室を拡充



LDR 室

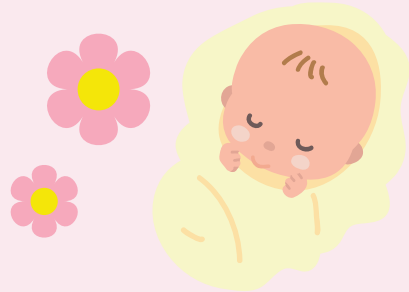
陣痛室・分娩室・回復室が一体となった個室

# 成育母子医療センター フロアマップ

令和元年12月の新病院移転に伴い、産科病棟、NICU・GCU、外来、小児病棟を1フロアに集約し、成育母子医療センターとして整備しました。



新生児室



病室



ファミリールーム

赤ちゃんとお家族がご自宅での生活をイメージして過ごすための部屋

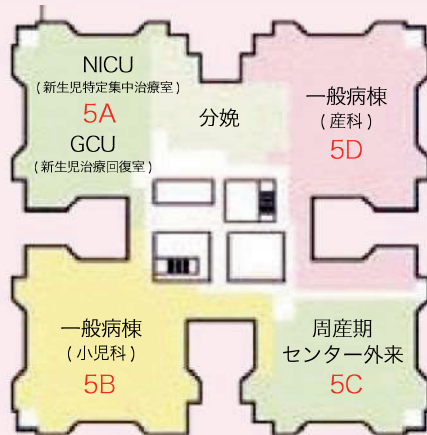


分娩室

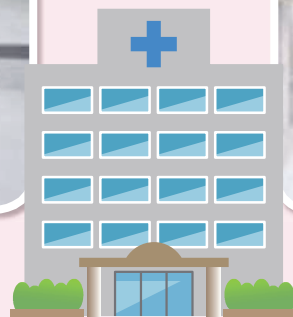


NST室

NST（ノンストレステスト）に使用する部屋



小児科病棟



外来

新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします

以下の症状がある方は、必ず事前に電話連絡をしたうえでご来院いただきますようお願いします。

発熱



強い倦怠感や  
風邪の症状



においや味を  
感じない



ご来院の際はマスクの着用  
をお願いします。



面会を原則禁止とさせていただきます。

面会は、入退院時、病状説明時、手術当日など、医師または看護師からご連絡させていただいた場合に限りさせていただきます。また、洗濯物等の受け渡しでご来院の際は、病棟入口のインターフォン外側で対応いたします。

※ 5階「成育母子医療センター」に訪れる方は、直接病棟にご相談ください。

アクセス



- ・JR「北浦和駅」から  
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 15 分)
- ・JR「浦和駅」から  
東口 国際興業バス「南台」行き「市立病院」下車(約 20 分)  
西口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 25 分)
- ・JR「さいたま新都心駅」から  
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 30 分)
- ・JR「東浦和駅」から  
国際興業バス「馬場折返場」行き 終点下車(約 15 分)、  
下車徒歩 5 分  
国際興業バス「市立病院」行き 終点下車(約 20 分)
- ・JR「大宮駅」から  
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 40 分)

さいたま市立病院  
住所 : さいたま市緑区大字三室2460  
電話 : 048-873-4111  
ホームページ : <https://www.city.saitama.jp/hospital/index.html>

発行:さいたま市立病院 発行者:院長 堀之内 宏久



※ この印刷物は1,200部制作し、1部あたりの印刷経費は60.5円です。